

消防団充実強化に係る取組事例

NO.	44 - 3	分野	3. 教育・訓練の実施 (1) 教育	作成年月	令和元年8月
地方公共団体名		大分県 大分市	担当課	消防局総務課 消防団担当班	
連絡先		Tel 097 - 532 - 2188 E-mail shobosoumu2@city.oita.oita.jp			
タイトル	かた昼消防団～「子供を中心とした地域防災の輪」				
取組の概要	<p>本市では、地域防災力の強化には将来の地域を担う子どもたちに向けた防災教育が重要であると捉えており、幼稚園から大学までの一連の教育課程にあわせて、消防団員が何らかの形で携わり続けることで、将来の地域防災を担う人材の育成だけでなく、消防団に入団しやすい社会の雰囲気醸成できると考えています。</p> <p>かた昼消防団は、平成12年に、本市賀来地区の消防団員と住民が独自にスタートさせた、小中学生が消防団員の指導の下、防火防災に関連する体験を行うプログラムで、令和元年8月現在で市内8地域10校に取り組みが広がっています。</p> <p>なお「かた昼」とは大分の方言で「半日」であり、子どもに過度な負担をかけないことで地域に定着を図ることを意図しています。</p> <p>また、実施主体を地域の消防団とし、消防局や教育委員会は、立ち上げまでの調整や、費用の助成、施設・資材の貸し出しという点でサポートを行っています。</p> <p>＜これまでの主な体験事例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子どもが消防団員とともに消防車両で地域を巡回しながら防火広報を行う。 同時に地域内の危険個所を知ることにつなげる。 ■消防団員の吸水操作を見学し、消防団員の補助のもと放水体験を行うことで、消防団員の活動や消防に対する興味を向上させる。 ■簡易担架の作成や段ボールベッドの組み立て方などを学び、避難所を深く知ることにつなげる。(学校のどの場所に資機材の備蓄があるかを子どもが知ることによって、避難所運営がスムーズになる) ■水消火器やロープなど消防局が貸出し用として整備した資材を使つての体験。 ■婦人会と連携した炊き出し訓練や非常食の試食を行うことで、地域で顔の見える関係性を構築する。 ■消防団員と河川清掃を行うなかで、河川を正しく畏れることについて学ぶ。 				

《これまでの奏功事例》

- 経験者が成人して地域の消防団に入団した
- 子どもの防火広報に反応した住民が道路まで出てきて手を振って応えてくれる
- 高齢者に声をかける子どもが増えた
- 小学校で発生した救急事案の際、子どもが救急車を誘導した
- 消防団員が地域の祭事を下支えする作業を行っている際に、子どもが手伝いを申し出た

《かた昼消防団と地域防災づくり》

当市では、かた昼消防団事業について、子どもが防災や消防団を身近に感じるだけでも効果があるだけでなく、体験や訓練の内容に工夫を加え、子ども達の家族や自主防災会、防災士、おやじの会、婦人会、老人会、PTA、事業所など地域を作る様々な主体の参加を促すことで、地域に子どもを中心とした防災の輪を形成することができると思っています。

あなたも みんなのまわりのヒーローになるぞ!

かた昼消防団に入団してみませんか?

かた昼消防団とは...

休日の午前中か午後の半日を使って、地元の消防団員と一緒に、消防、防災活動をする体験プログラムです。
(概ね小学5年生から中学3年生までが参加できます。)

主な活動内容

- 基礎訓練
- 放水訓練
- 清掃活動
- 防火衣着装体験

保護者の方へ

災害は、1人では立ち向かえません。必ず誰かに助けられ、助け合いながら協力し合う必要があります。そこで、「かた昼消防団」の体験活動とおして、地元消防団と自衛・共助の精神を育みながら防災に対する意識を高め、自衛とともに目的を共有することで、一緒に活動する喜びを感じていただけるものと思っております。ぜひとも、「かた昼消防団」への参加をお願いいたします。

※募集内容については、担当する消防団により異なります。

かた昼消防団募集ポスター



積載車のマイクで火災予防広報



団員と協力して腕用ポンプの取り扱い

その他参考情報